

たとえば「この道一筋」と他者から評価される人生ではなくても、自分にとっては「振り返れば一本道」でしかありえません。皆さまが魂に震えながら生み出す新しい文学作品は、ある意味ではノンフィクションのような産物である。つまり今・此処にある苦しみを正当化する作業ですから、その観点から加工された表現こそが22世紀アート代表・向田氏が求めていることだと私は思っています。

文学レボリューションは、これから先の22世紀アートにとって確実に太いコンテンツとなる。これらを踏まえ、まずは、小さく現実的なモデルを立ち上げる。小さくていい。その代わりに続けていける仕組みにする。なぜなら、かつてのラノベ同様、この企画も動き出した途端に、予想外の変化をすることになるわけだから。